

平成19年度事業報告

法人

『日中活動の場』として、現在の通所授産施設まどい作業所を廃止し、平成20年4月1日に開所する「生活介護事業」「就労継続B型事業」「就労移行支援事業」の多機能型事業所への移行準備作業の最終年度であった。その就労移行支援事業のために土地を取得し、作業棟を増築した。又、利用者定員は現在の20名から26名とした。

また、共同生活介護（ケアホーム）、共同生活援助（グループホーム）が定員12名の一体型事業として2棟の家に分かれて生活しているが、4月より男性1名が利用され現員は10名となった。この方は入浴排泄等の介護度が高いため、世話人を1名増員した。

社会福祉法人としての国際ラルシュへの加盟については、19年12月27日静岡市より公式な回答をいただいた。「社会福祉法人が他の団体と契約を結ぶことは市の認可事項ではない。理事会、評議員会がよく協議し責任ある決定を行うこと、等。」であった。

事業計画

市の公式回答に則り、基本理念を補足して「基本理念の実現のため、当法人はラルシュの精神を深めます。」を付け加えた。事業計画全体としては、新体系事業への大きな変換を迎えるので、混乱を防ぐため平易で具体的な表現に努め、平成20年度事業計画を策定した。

理事会、評議員会

本年度、評議員会は5月19日、8月25日、10月13日、12月15日、3月22日の5回開かれ、理事会は同日の5回に加えて2月5日（水）に臨時会が召集された。これは障害者就労訓練設備等整備事業の助成が決定され、指名競争入札の業者選定が必要となった為である。

全ての理事会、評議委員会が定足数を満たし有効に審議された。法人役員として、理事7名、監事2名、および評議員15名は欠員なく19年度は法人運営に取り組んだ。

職種別職員数（平成19年3月1日現在）

常勤職員5名（施設長1名、事務員1名、指導員2名、調理員1名）

非常勤職員7名（指導員3名、世話人2名、生活支援員1名、調理員1名）

経営環境の変化、法人の将来に向けての人材確保、育成の観点から長期的な視野にたったの検討が必要である。しかし、20年度からの障害者自立支援法による新体系事業では報酬減が予定されており、現状維持自体が困難となるであろう。

まどい作業所

年度初めより2名の方とサービス利用契約を結んだ。その内1名は、ケアホーム「かなのすまい」も利用する事となった。利用者1名が就労を目指して静岡障害者職業センターでの8週間のプログラムを受けた。

新体系の多機能型事業への移行準備作業のため、様々な検討に明け暮れた1年であった。先ず給食体制の見直しを行った。利用者が増大し、食事の場所が本部棟と新棟にわかれ、しかも人件費削減を求められる中で可能な、1食あたりの目標値（食材費、人件費）と負担していただく食費の設定を行った。「共に食事を大切にする」という当法人の基本姿勢を守るため、意識の変革を必要とした。

様々なシミュレーションをもとにして、サービス提供単位ごとに必要な人員配置、実状を大きく外れない多機能型事業の総定員、各事業希望者数の予測と平均利用者数の目処などから、各事業定員数など決定した。他に、開業日数、各事業の名称と内容を取り決め、又、主たる対象を知的障害とした。これらの事について、利用者・ご家族への再三の事業内容説明と意向調査を行った。結果的に全員の方が希望されたサービス事業を利用される事となり、年度末に契約が締結された。

年間利用者数

今年度は、年間を通して定員21名の利用者があった。施設利用者の支援については、個別支援計画に基づき進められた。大きな事故もなく概ね安定した作業、行事、余暇活動、利用者会議が行われた。

健康管理、衛生管理

健康診断の年2回受診。給食関係は静岡市行政監査および保健所の監査においても、とくに問題の指摘がなかった。

実習生、研修生、ボランティア、体験者などの受け入れ

受け入れの内容	体験者	延べ人数	延べ日数
教員免許取得のため介護体験	常葉大学 静岡大学など	5名	25日
福祉施設現場実習	英和学院 上智大学など	6名	90日
養護学校生徒施設実習	北養護学校、 静大付属など	5名	50日
日本キリスト教海外医療協力会 (JOCS)		4名	30日
他の施設職員の体験	アジア学院、 NPO 愛実の会など	4名	14日
双葉学園母の会	毎月2回	10名前後	
その他、毎週定期的に訪れてくださるボランティアが4名。(20年3月現在) この1年間に訪れた体験者 のべ138名。			

職員研修実施内容

下記の通り各研修会に参加した。

月	日	研修会議名(会場)	参加者
4	17	障害者連絡協議会 (東京 日本カトリック会館)	理事長
	19	静岡県愛護協会理事会 (静岡市 クーポール会館)	施設長
	24	静岡県社会就労センター協議会施設長会 (静岡市 東海軒)	施設長
5	22	静岡県授産事業振興センター総会 (静岡市 ニッセイビル)	施設長
6	12	就労支援事業 経理講座 (静岡市 エスパティオ)	事務員
	14	福祉施設職員 研究発表会 (静岡市 労政会館)	指導員
	25、26	全国施設長会議 (パシフィコ横浜)	施設長
	25、26	施設事務職員 経理基礎講座 (静岡市 商工会議所)	事務員
7	23	愛護協会 事務職研究集会 (静岡市 ホテル中島屋)	事務員
	24	愛護協会 スポーツ療法講座1 (静岡市 ペガサート)	生活支援員
	26	監事監査研修会 (静岡市 グランシップ)	理事長・監事
	26	愛護協会 心理学療法講座1 (静岡市 ペガサート)	世話人
	31	愛護協会 絵画療法講座1 (静岡市 ペガサート)	生活支援員
8	1	愛護協会 心理学療法講座2 (静岡市 ペガサート)	世話人
	8	施設長等運営管理職員研修 (静岡市 アザレア)	施設長
	17	愛護協会 心理学療法講座3 (静岡市 ペガサート)	世話人
	24	愛護協会 スポーツ療法講座2 (静岡市 ペガサート)	生活支援員
8	27	愛護協会 絵画療法講座2 (静岡市 ペガサート)	生活支援員
	27、28	施設事務職員 経理応用講座 (静岡市 商工会議所)	事務員
9	27	愛護協会 スポーツ療法講座3 (静岡市 ペガサート)	生活支援員
11	12	愛護協会 絵画療法講座3 (静岡市 ペガサート)	生活支援員
	28	サービス管理責任者(就労)研修 (静岡市 もくせい会館)	サービス管理責任者
12	3	全国授産施設運営研究協議会 (浜松市 ホテル浜松)	施設長
	6、10	サービス管理責任者(介護)研修 (静岡市 もくせい会館)	サービス管理責任者
	13	施設事務職員 経理応用講座(税務) (静岡市 商工会議所)	事務員
	25	愛護協会 施設長研修会 (浜松市 ホテル浜松)	施設長
1	25	福祉施設等就労支援セミナー (静岡市 県介護協会)	施設長
	30	障害者就労自立支援フォーラム (静岡市 アザレア)	サービス管理責任者
2	1	知的障害専門支援従事者研修会 (静岡市 城東福祉エリア)	生活支援員

年間行事計画

下記の行事を実施した。

行事名	実施日	自己負担
春のお祝い：復活祭	4月11日	
初夏のハイキング	5月17日 高山 市民の森	
夏の外出：	8月6日 三津シーパラダイス	有り
かなの家祭り	10月27日	
秋のハイキング	11月16日 安倍峠	有り
クリスマス会	12月25日	共同募金
餅つき会：仕事納め	12月28日	
	1月23日 サーカス鑑賞	
スポーツ大会	2月8日 サッカー	
春の外出	3月30日 日本平動物園	有り
その他； 毎月の誕生会		

家族会とのつながり

日時	実施目的	内容
4月27日	家族会総会	活動報告、会計報告、役員改選、新入会員紹介、など。
	移行説明会	新体系事業への移行に向けた準備作業の説明。
7月13日	” 役員会	給食体制の見直しについて、など。
8月3日	移行説明会	意向調査（移行先希望）のお願い。
10月27日	かなの家祭り	家族会と法人の共催。 殆どの方が模擬店などを出店される。
11月9日	移行説明会	法人の移行方針と目的、移行計画の説明。及び移行先の決定。
11月21日	起工式	新作業棟（就労移行支援事業）予定地
3月26日	バザーの参加	県福祉会館リニューアルオープンバザー。
3月31日	祝別式	就労移行支援事業めぶき の完成を祝う。

災害訓練

毎月避難訓練を実施した。以後毎月避難訓練を実施、消防設備点検を8月と3月に実施した。

苦情相談（一部、抜粋）

「対応」については別紙参照

	申出人	内容	結果
1	利用者 （女）	かなのすまい（グループホーム）に住みたい。	母親と話し合う。家族が不安定な時期で本人に当たっていたかもしれない。
2	利用者 （女）	ほかの仕事をしてみたい。もっとお金が欲しい。	母親と連絡を取りながら、職業支援センターで就労支援のプログラムをすることになった。
3	母	本人（男）の誕生会（まどい作業所での）に参加したくない。そのことを気にしている。	誕生会の食事には参加しないで、花束、お祝いのカードを渡すときに参加するようにする。
4	利用者 A（男）	自分の世話をしようと、E男とM子がけんかになってしまう。それをやめてほしい。	E男の好意をA男が迷惑に思っている事が、E男には理解できない。その度ごとの説明を要する。
5	利用者 （男）	畑作業中に後輩の利用者に向かって、物を投げて怒る。ライバル意識が生まれてきた。が、その後担当職員に謝る。	型にはめず、自主的に仕事をしていくように支援してみる。
6	利用者 （女）	石鹼工場作業中、I子とぶつかる。I子との関係が難しい。	二人へお互いの気持ちを説明し、二人の気持ちを聞く。職員は問題点を見ていく作業と気持ちを汲み取る作業を続ける。

共同生活介護、共同生活支援 かなのすまい

地域生活援助の事業として、グループホーム「かなフォアイエ」生活寮「つどい」の2箇所を運営している。平成17年12月に生活寮「つどい」をグループホームに事業名を変更するよう申請。12月13日付けで認可される。利用者の入れ替わりはなく昨年度と同様であった。第2種社会福祉事業としてグループホームを2箇所運営することになった。

まどい作業所同様、支援費の地域生活援助の受給者証が18年2月28日までであり、契約期間も同日までとした。また3月31日まで延長し、全員契約期間を更新した。4月1日より自立支援法による契約に変更することになる。また18年10月までに支援法での事業に切り替え申請することになる。経営、運営上の観点から申請に向けて検討する。

個別支援計画に相当する計画作りに着手した。防災訓練の実施、地域行事の参加をした。

年間を通した利用者数は8名(2箇所)、うち2名は休日のガイドヘルパー利用をした。まどい作業所利用者の宿泊体験は3名のべ6名であった。

グループホーム体験

全国各地からグループホーム(ラルシュ)の生活を体験に来られました。

月	人数	延べ日数	月	人数	延べ日数	月	人数	延べ日数
4月	12人	37日	8月	7人	34日	12月	2人	9日
5月	8人	24日	9月	13人	22日	1月	8人	43日
6月	7人	40日	10月	2人	10日	2月	6人	26日
7月	5人	29日	11月	8人	33日	3月	10人	28日
年間合計 88人			延べ体験人数 335人					

夜間災害避難訓練の実施、健康管理については定期歯科受診、インフルエンザ予防接種(希望者)皮膚科、内科、耳鼻科、眼科、外科、精神科等の受診に付き添いを必要とする度合いが増加、今後の更なる健康管理につとめる。

毎週金曜日職員会議等実施。

毎週木曜日 利用者会議実施

以上